

## 佐倉市ボランティア連絡協議会

## ボランティアグループ「ラ・ポール」

～特技を活かして日本文化を共に楽しむ～

8月、愛光「めいわ」(視覚障害や知的障害を併せ持つ方のための施設)の創作室で、利用者さんが毎月1回楽しみにしているお茶会を取材しました。

テーブルクロスがかけられ、日々草の花が一輪。ご挨拶をして利用者さん10名の抹茶を点てる姿。稻田さんと田村さんが心を込めておもてなしをされていました。使用しているお茶碗は施設の陶芸班の手作り。季節に合わせた和菓子が出され「お茶にかかわったすべての方々に感謝をしていただきましょう」の稻田さんの言葉に感動しました。2服目は茶せんを持ち全員自分で点てました。美味しいいただき、利用者さんが務められたお正客の挨拶で茶会を終了しました。私も抹茶をいただく機会がなく戸惑うこともありましたが、約1時間お茶会に参加してボランティアの皆さんのお活動の一つを知ることができました。

9月、特別養護老人ホーム弥富あさくらの生け花の会を取材。秋らしくススキを中心に数種類の花を利用者さん10名で生けました。その一人ひとりの作品を鑑賞して「草木を思いやる気持ちを忘れずに」の言葉で終りました。心を込めて生けられた作品は施設のロビーに飾られ、訪れる方や利用者さんの気持ちをもてなしていました。

ラ・ポールの皆さん、それぞれ特技を生かした活動をされていて、改めてたくさんの活動がつながり広がっていくことを感じた取材でした。

取材：川島（個人ボランティア）

個々に特技を生かしての活動  
1.生け花とフラーワーアレンジサークル  
2.茶道サークル 3.個人宅、独居高齢者宅の傾聴 4.施設内車いす補助  
活動日：年4回の定例会での勉強会



愛光「めいわ」お茶会の様子



個々に特技を生かしての活動  
1.生け花とフラーワーアレンジサークル  
2.茶道サークル 3.個人宅、独居高齢者宅の傾聴 4.施設内車いす補助  
活動日：年4回の定例会での勉強会

## ハーモニーの会

～懐メロ演奏 利用者の思い出を乗せて～

特養ときわの杜（平成23年開設、定員100名、佐倉市石川）の訪問活動を取材。天井高く柔らかな日差しが注ぐ開放感あふれるデイルームに一同集合。西永会長の軽妙な司会のもと過去、現在、未来を表現した「佐倉ふるさと体操」で心身ともに“鑑賞態勢”整い開演する。ハーモニカ演奏が開始され「上を向いて歩こう」「かたつむり」「草津節」…。事前に配られた歌集にそって進む。こ

こ「ときわの杜」訪問は3回目のこと。演奏を耳にしながら楽譜を見て皆で口ずさむ。佳境にはいる頃、「憧れのハワイ航路」「矢切の渡し」ではのど自慢の利用者さんが飛び入り参加。熱唱に思わず皆さん、拍手喝采。会の最長老93歳の柏原さんの力強い演奏を聞き入居者の方から「私も頑張らなくては」と勇気をもらった様子。終演はアンコール「富士山」でお別れ。

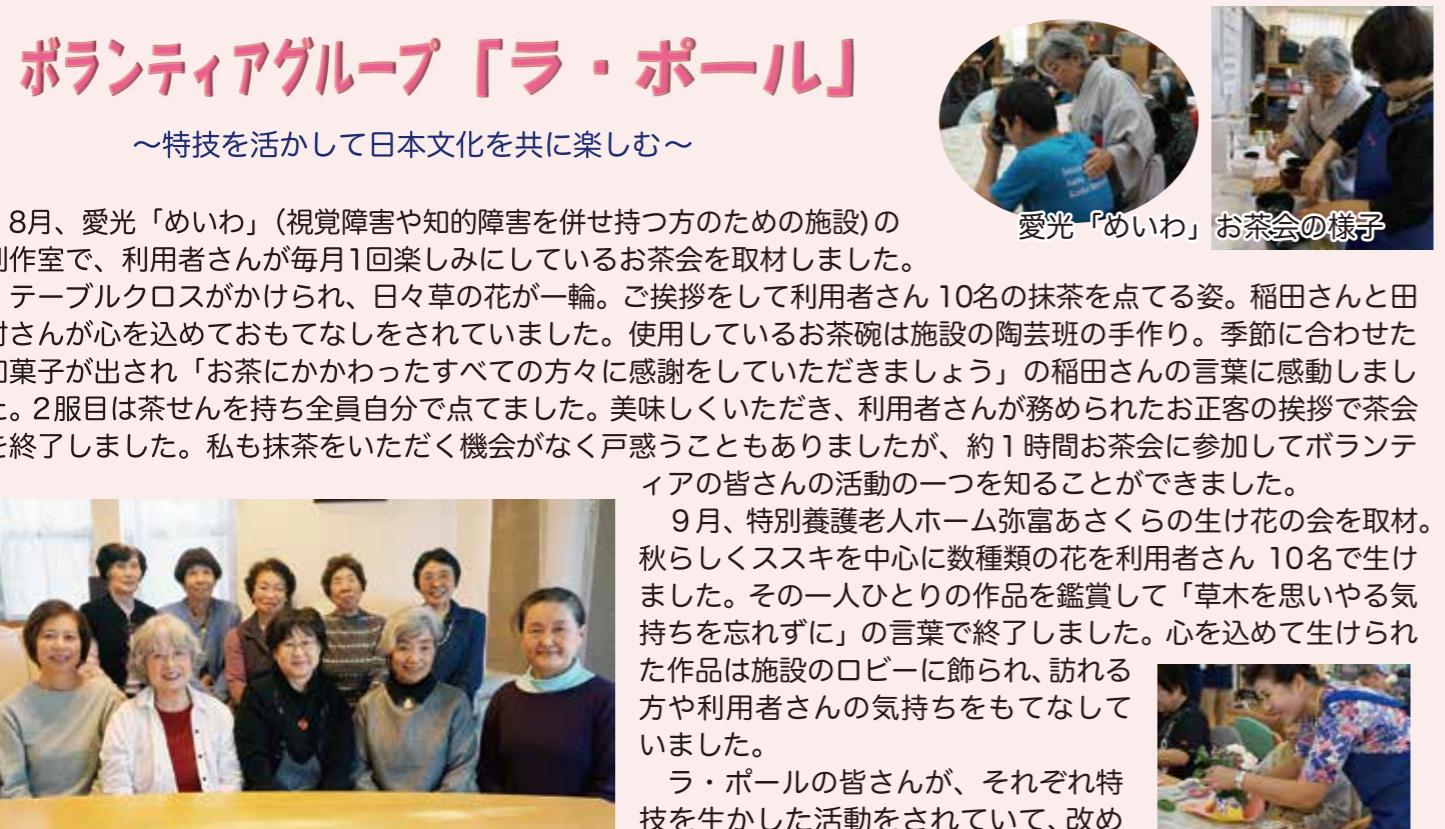


介護施設を訪問 「佐倉平和のつどい」平和コンサートの部で出演  
活動日：第1、第3火曜日ハーモニカ練習、随时演奏活動

私の前にいた車いすの入居者さんと介護スタッフの会話。「楽しい時間を過ごさせて頂いて有難いね」「本当ですね。良かったですね」が心に残った。

「ときわの杜」の取材後に行われた「平和のつどい・平和コンサート」や「ボランティア・市民活動フェスタ in 佐倉2019」にも出演。見事なハーモニーを奏でおられ、心に響く音楽を感じた取材でした。

取材：前田、友崎（佐っちゃん・倉くん応援隊25）



## 団体・個人ボランティアの活動紹介

## 佐っちゃん・倉くん応援隊25

～昭和ジジババと平成子ども達 ニッコリ笑顔が2つを結ぶ～

市民力レッジ25期生で結成された“佐っちゃん・倉くん応援隊25”的学童訪問を取材しました。今回の活動先は、「臼井老幼の館」内の学童保育所です。夏休みの7月26日、44名の子ども達が集まりました。

隊員が二手に分かれ低学年では「昔遊び」のお手玉、あやとり、紙飛行機づくりや大きな絵本の読み聞かせを。高学年では「今遊び」の巻き巻きマッキー、子ども向けボッチャに加えストロートンボを。どの遊びの場面を見ても子ども達の目が輝いて見えました。

平均年齢68歳、祖父母世代の隊員が、子ども達に寄りそい右に左に大奮闘。日頃、スマホゲームやYouTubeなどに接触する機会が多いと思われる孫世代の子ども達には、「遊び」という貴重な体験ができたのではないかと思います。

最後の表彰式では、手作りのぴかぴかメダルが首から下げられ照れくさそうに微笑む子ども達に、隊員の温かい眼差しが注がれていたのが印象的でした。そしてお手玉のプレゼントも準備され細部にまで行き届いた演出と心配りに感心しました。毎年10回以上も学童訪問を実施する応援隊。隊名最後尾“25”は“ニコ”と読むそうで、その名の通り、子ども達、隊員、保育所スタッフ、そして、私も『ニコッ』となる素敵なものでした。

取材：高橋（ハーモニーの会）



学童保育所に通う市内小学生を対象に  
1.「絵本」等、読み聞かせ  
2.「昔遊び」(お手玉、あやとり、おはじき、紙飛行機)  
3.「今遊び」(お手玉ボッチャ、進化ジャンケン)等と一緒に楽しむ  
活動日：主に夏休み、その他随時

『祖父母世代の人達とのかかわりあいの中で遊ぶ』という貴重な体験ができたのではないかと思います。

最後の表彰式では、手作りのぴかぴかメダルが首から下げられ照れくさそうに微笑む子ども達に、隊員の温かい眼差しが注がれていたのが印象的でした。そしてお手玉のプレゼントも準備され細部にまで行き届いた演出と心配りに感心しました。毎年10回以上も学童訪問を実施する応援隊。隊名最後尾“25”は“ニコ”と読むそうで、その名の通り、子ども達、隊員、保育所スタッフ、そして、私も『ニコッ』となる素敵なものでした。

取材：高橋（ハーモニーの会）

個人ボランティア  
川島幸一さん

～ピアノの音色に誘われ心和む空間～

川島さんによる、ピアノ演奏「乙女の祈り」が流れだし、染井野ヒルズ「ひまわりの里」の利用者さんがゆっくりと2階フロアに集まり始めました。活動のきっかけはボランティアセンターからの依頼で将棋対局ボランティアとのこと。その後、川島さんの方から特技のピアノ演奏を活かしてレクリエーション活動を提案していかれたそうです。

この日も一人の方と将棋の対局をし、その後ピアノ演奏がはじまりました。館内に居ることが多い利用者さんに四季を感じる曲を選び届けるために、事前の準備や練習をしっかりされているそうです。唱歌の「富士山」「海」、歌謡曲の「瀬戸の花嫁」…と季節にちなんだ曲を選び出し、少しリズムをスローにして、利用者さんに合わせて進めています。

それぞの方が好きな距離感で参加され、川島さんの温かい人柄が伝わる空間に20名位の方が集まりました。昼食前には職員さんも加わり、ピアノに合わせて体を動かす「リズム体操」や唾液が出やすくなる「口腔体操」にみんな笑顔で参加していました。

川島さんは他にもいくつかの個人活動やグループの一員としても活動されているそうです。

毎週木曜日 10時～12時 染井野ヒルズひまわりの里  
送迎ボランティア（移動サービスセンター）  
随时、ボランティアセンターの要請に対応



取材：稻田、関谷（ボランティアグループ「ラ・ポール」）